



開発が進む学研奈良登美ヶ丘駅の周辺（本文中に関連記事があります）

目次／contents

人・まち・地域…………… 2

- ・ レール&ショッピング in 五月の京都／高野隆嗣
- ・ 「大阪市未来わがまちビジョン」がまとまりました
／大阪事務所「未来わがまち会議」担当
- ・ 市民がつくる「まちづくりビジョン」／嶋崎雅嘉

きんきょう…………… 7

- ・ 「大阪湾まるごと水族園」／原田弘之
- ・ ロボット博の紹介／澤田英郎
- ・ “けいはんな発・まちブランド” ついに発車！／山本昌彰
- ・ ソーシャルアクションスクール（竹中塾）に参加して／田口智弘
- ・ みんなの思いをつなぐ～ JR 福知山線事故から 1 年目の取り組み～
／坂井信行
- ・ 新人紹介／山崎裕行・西村創

うまいもの通信…………… 14

メディア・ウォッチ…………… 15

まちかど…………… 16

- ・ まちの姿が見えてきた二条駅周辺地区／松尾高志



レール&ショッピング
in 五月の京都
PiTaPaとKICSの
コラボによる社会実験
京都事務所 / 高野 隆嗣

買物したら電車代キャッシュバック

今月5月1日から31日までの一ヶ月間、「レール&ショッピング in 五月の京都」が実施されます。阪急又は京阪沿線の駅からPiTaPaで京都までお越しいただき、市内のKICS加盟店で買物すると、電車代をキャッシュバックするというものです。

関西人には馴染みのPiTaPaは、ポストペイ型の決済機能付きの鉄道ICカード。KICSとは、京都市内44商店街が加盟する「京都情報カードシステム」のこと。一商店だと中々大変なクレジットカードの決済処理を「連携」の力で合理化する優れたもの。「日経地域情報化大賞 2005」も受賞しています。

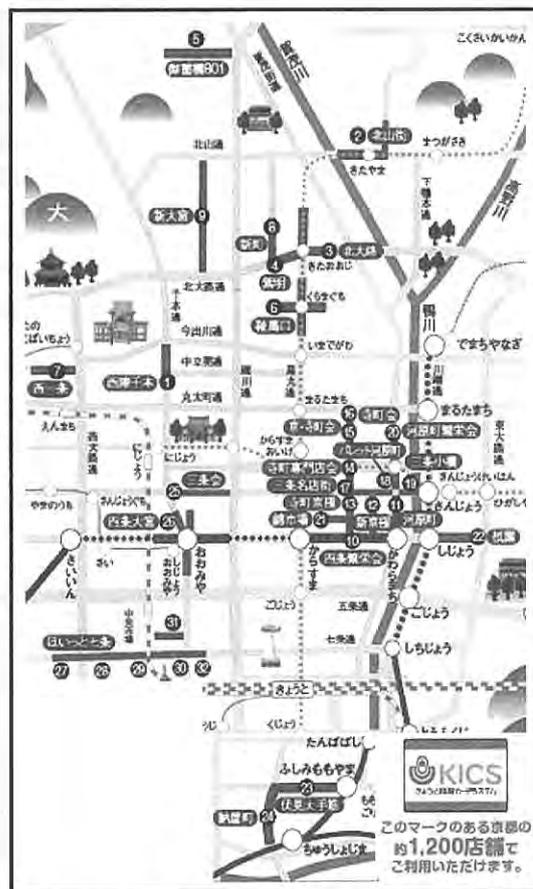
京都市内のKICS加盟12百店で実施

全国初の「鉄道ICカードを用いた運賃割引サービス」ですが、実は今年3月にも、近畿運輸局が主催して、京都都心35店舗でテスト済みです。今回の取り組みは、これまでの任意団体から合同会社(LLC)に移行するのにあわせて、12百店舗に参加を広げて開催するものです。

仕掛人は樋爪さん。立ち上げから法人化まで世話役を務めてこられた方であり、都市再生モデル調査(ニュースレター Vol.125)以来、京都都心の交通問題(交通渋滞・不法駐輪等)の解決とKICSを連動した企画を練られてきました。四条繁栄会のタクシーチケット事業(ニュースレター Vol.132)の仕掛人でもあります。

公共交通利用と販売の促進

今回事業のポイントは3点。第一に、各店舗における顧客の商品購入情報と私鉄の乗車区間情報、お店のクレジット・カードシステムと私鉄の決済システムを繋ぐことで電算処理し、電車代をキャッシュバックする仕組みを構築したこと。補助金も活用しますが、キャッシュバックする電車代は全て



市内のKICS加盟商店街
上：京都駅以北 下：伏見

京阪電車をご利用のお客様

「e-kenet PiTaPa」会員様を対象に、「京阪マイレージPiTaPaカード」で京阪電車を利用して、同日、KICS加盟店で「e-kenet VISAカード」でクレジット払いされたお客様の当日の京阪電車の運賃を7月(クレジットご利用がない場合は8月以降)にキャッシュバックいたします。

キャッシュバック

阪急電車をご利用のお客様

HANA PLUSカードのPiTaPa機能を使って、阪急電車にご乗車され、同日にKICS加盟店でHANA PLUSカードのクレジットで、購買のお客様を対象に、阪急電車の当日運賃をキャッシュバックいたします。キャッシュバックは、8月10日(一部8日)にご登録の金融機関口座に返金させていただきます。8月10日にお引落し(ご請求)のある場合は相殺となります。

キャッシュバック

図出典：事業パンフレットから

KICSの負担です。年間取扱高1百億円超のKICSだから出来る壮大な実験と言えます。

「『買物でマイレージ貯まります』というやり方は航空会社が得するだけ。それなら電車代サービスの方が良いでしょう」と樋爪さん。同感です。

第二に、今回の実験は、公共交通利用促進による市街地における交通対策と、販売促進事業の双方を両立する事業であること。交通渋滞解決のために「マイカー乗入れお断り」と切り捨てるのではなく、「電車の方がお得ですよ」というわけです。1万円以上ご利用なら最大1千円までOKですから、京都はもとより大阪からも「運賃無料で京都めぐり」が何度でも可能です。マイカー利用が減れば排ガスも削減。お客さんに喜んでもらいながら社会貢献、商売も繁盛！一石三鳥です。

第三に、この実験が単発イベントではなく、今後の展開に大きな可能性を秘めていること。今回は阪急・京阪の2社限定ですが、京都市営地下鉄などにも利用を拡げれば、更に効果が上がります。将来は「週末は東京から京都へ。でも新幹線や市内の移動はタダ」ということになるかもしれません。もちろん、買物とお食事は、“たっぷり”お願いします。

京都議定書発祥の地から全国発信

伝統と革新の共存する京都。お商売されているみなさんは、新しいものを取り込んで商売に繋げる精神を継承しています。交通問題のように明確な因果関係があっても、原因者を糾弾・排除するのではなく、「関係者みんなが満足できる仕組みづくり」に知恵が絞られています。COP3「京都議定書」発祥の地としての自覚と責任も、今回事業の大きな原動力となっています。

KICSが大きな役割を担う事業ではありますが、他都市だって同様の仕掛けは可能です。郊外大型

店にマイカーで出掛けるより、電車使って街まで買物が当たり前。便利でお得。地球に優しいのだから理に適っています。

電車で買物がカッコイイ。そんなスタイルを京都から全国に発信します。

■5月の京都は魅力満載



鴨川の床 (5月1日から9月30日まで)



葵祭り



※写真出典：いずれも JR 東海「写真便り」

哲学の道の新緑



ひと・まち・地域

「大阪市未来わがまちビジョン」
がまとまりました
大阪事務所／「未来わがまち会議」担当

大阪市の基本計画改定にあわせて、住民組織や活動団体が集まって、区毎の市民活動指針を作成しました。「区別計画」というと、都市基本計画を行政単位に書き分けたもの、市民と協議しつつ既往の行政計画を再構築したもの等、各政令市によって性格が異なります。この区別の「わがまちビジョン（市民活動指針）」の特徴は、区毎に市民活動の方向性を打ちだそうとしたものです。従って行政計画ではなく、市民のわがまちビジョンを作ろうということです。

大阪市には24の区がありますが、その中の8つの区

（中央、天王寺、西、浪速：中央ブロック）（西淀川、此花、港、大正：西部ブロック）を分担しました。住民と事業者との関係の強い臨海部の区では、企業と住民組織が市民活動の重要な担い手です。大企業や商店街を抱える都心区では、住民の高齢化や人口減少が続いてきました。ここでは「雇われ人」や「よそ者」もまちづくりに不可欠な存在です。それぞれの区の状況を反映し、参加された人の年代、職業など多様な顔ぶれでした。ビジョンとしての印刷物はできましたが、「市民がつくる、わがまちの将来像」は始まったところですよ。（堀口浩司）

中央区

中央区は地域団体の代表者と区内で活動している市民活動グループのメンバーから構成されています。住民だけでなく、市外に居住するサラリーマンや店主も一緒になって検討しました。

関西を代表する企業の集積がある船場、歴史を感じるたたずまいが印象的な上町台地、商いのパワーあふれにぎわうミナミ…大阪の都心として多彩な顔を持つ中央区。そんな区のキャッチフレーズは、「あっ！と言わせる中央区 歴史と文化と商いで」。住民・企業・商売人と人材も豊富で、パワフルな区民のまちづくり活動がまた展開されています。その強力なポテンシャルをうまくつないで、大きなまちづくりの力にできるか。参加メンバー有志によるビジョン実現に向けたネットワークづくりも生まれつつあり、「あっ！と言わせる」中央区のまちづくりにご期待を。（絹原一寛）

天王寺区

自分が住んでいる天王寺区のわがまちビジョンを今回担当させていただき、まち歩きや四天王寺などの社寺を訪れ、大阪を代表する脈々と受け継がれる歴史・文化・人の奥の深さに「本当エエとこやなー」と改めて実感しました。

委員16名にワークショップ等への協力委員33名（H16）+16名（H17）を加え話し合った結果のまちづくりの将来像が、「地域のコミュニケーション力を向上させ暮らし続けたい、暮らしたい まち天王寺」であったのは、逆に、最近の都心回帰のマンションラッシュに対して、地域の方々が自分達の時代に地域の歴史や文化、人間関係を消費しているのではないかという危機感の表れではないかと感じています。

今回のビジョンを、アクションにつなげていくために、今後、地域で活動している色々な方々のつながりを深め、地域力をさらにアップしていきます。（中塚一）

西区

西区では各連合自治会から参加した26名の委員によって計13回を開催し、検討を続けてきました。

西区の将来像は「花とみどりのうるおいにあふれ、思いやりと安心がいっぱいのもち」となりました。西区には鞆公園などの花やみどりのある公園が多くあることが背景かなと感じています。

また具体的な検討のテーマとしては4つが提案されました。「公園を生かした都市の暮らしづくり」「安全・安心で美しい生活環境づくり」「子供からおとしりまでふれあいのある地域づくり」「ストックを活用した便利でにぎわうまちづくり」です。

とくに公園に関する意見が多くだされ、すでに鞆公園での50周年記念イベントにからめた小中学生による記念植樹やプラスバンドコンサートなどを実現し、今後は、その他の公園でも記念植樹や利用ルールの見直しなどを継続的に検討していく予定です。（馬詰建）

浪速区

浪速区の35名の委員の特徴は、自治会や社会福祉協議会等の各種団体に加え、でんでんタウンやなんばパークス（南海電鉄）、クボタといった企業の方も委員として参加されたことです。委員は「浪速の歴史・今・昔 未来へチーム」「なにわループチーム」「安全・安心チーム」という3つのテーマ・チームに分かれて検討を行いました。

各チームからは重点アイデアが出され、すでに歴史チームの『安政大津波の碑への墨入れ』は電鉄事業者の協力により実現し、現在は記録DVDを作成中です。また、なにわループチームの提案した『浪速区発ジャズコンサート』は、なんばウインズで開催されたわがまちフォーラムでミニ・コンサートとして実現するなど、その他のアイデアも区民、企業、行政の協力により取り組んでいく予定です。（馬詰建）



港区：グループワークの様子



浪速区：ジャズコンサート



天王寺区：まち歩き

西淀川区

西淀川区では23名の委員によって20回以上の会議やフィールドワークを重ね、西淀川区未来わがまちビジョンを作り上げました。このビジョンには、わがまちの将来像として「誰もが住みたいまち、区民が住み続けたいまち」への願いと、みんなの努力により良くしていくことを目指すという意味を込めて「住みやすいまち西淀川区」を掲げています。住みやすいまちにするために、まちづくりの柱として「緑が豊かなきれいなまちにしたい」「宝がいっぱいあって、それを守るまちにしたい」「みんなの笑顔があふれるまちにしたい」の3つテーマについて、たくさんの行動提案を盛り込んでいます。

未来わがまち会議に参加した委員は、この会議で培ったパワーを、区民一人ひとりの行動へとつなげていくために、まちづくりの新たな1歩を踏み出しています。未来に乞うご期待。(後藤久美子)

大正区

大正区未来わがまち会議は32人のメンバーで構成されていますが、最後まで比較的出席者も多く、熱心な議論が続けられました。行政も区長が毎回出席するという熱の入れようです。グループも「チワワの瞳」「ぐるっとリバー」など個性的な名前が多いことも特徴です。「新発見!!人・まち・自然」を将来像に掲げ、水に囲まれたアイランドシティのまちづくりが議論されました。

一通りの議論が終わった後、各グループの連携のもとで「地域資源発掘(企業見学等)」「防災マップのモデル作成」「子どもと船で大正区一週」の3つの企画が実行に移されました。今後の本格的な活動に向けたトライアルです。

このトライアル企画の経験をもとに、わがまち会議の熱気を継続しながら今後の取り組みが本格化していくことが期待されています。(坂井信行)

此花区

此花区の花がまちビジョンは「いきいきと住みつけたいまち この花」です。みんなが元気にいきいきと暮らし、商店街や駅前にはいきいきとした活気があり、まちには緑や花がいきいきと育つ…そんな素晴らしい此花にしていくためのまちづくり提案が盛り込まれています。此花区では、未来わがまち会議に先行・並行して、地域福祉アクションプランやまちづくりWS(教育、防災、福祉)などの活動が活発です。未来わがまちビジョンはいわば「後発」でしたが、「市民まちづくり交流会」を開催するなど、先行する活動を含め、市民まちづくり活動を緩やかにネットワークする「つなぎ役」となりました。今後は、この行動指針をもとに様々なまちづくり活動が連携し、元気に楽しみながら、市民まちづくり活動が区民全体に広がることを期待されます。(岡本壮平)

港区

港区では26人のメンバーで15回にわたって議論を続けてきました。みんながめざしたい港区の将来像を「みんながニコニコ水辺のまち港区-Sea・See・Safety-(ふたりに歩きたいまち)」です。美しい海(sea)や港の風景を眺め(see)ながら、安心して(safety)みんながニコニコ暮らせるまち。だれもが彼や彼女と一緒に来たいとあこがれる水辺のまちといった意味です。

これをめざして「区民歩こう会の開催」「堤防などへの壁画ペイント」「井戸端情報マップづくり」などに重点的に取り組んでいくことになりました。すでに、当面の目標である港区民歩こう会の開催に向けたプロジェクトチームが立ち上がっています。

これらの具体的な取り組みの中でテーマの拡がりや、人的ネットワークの拡がりをめざしていくことにしています。(坂井信行)



ひと・まち・地域

市民がつくる
「まちづくりビジョン」
茨木市都市計画マスタープラン
策定の取り組み
大阪事務所／嶋崎 雅嘉

市民にわかりにくい都市計画マスタープラン

茨木市では、平成10年に現行の都市計画マスタープラン（以下都市MP）を策定していますが、その当時、市民の方々から都市MPに対する意見をいただくために、地域別の説明会を開催しました。

しかし、説明会に参加した市民の数は非常に少なく、参加者数名の地域もあったようです。それは、都市MPが、市民にとって、使いにくく、よくわからないものだったのだからかもしれません。

そのような経験から、市民が自らのまちのことに関心を持ち、まちづくりに取り組む上で役に立つ都市MPにするべきだという強い思いを今回、関係者全てが持ち改訂に取り組んでいます。

「暮らしの視点」から考える都市MP

茨木市では、「市民の暮らし」の視点から出てくる、まちに対する課題や将来像を描き出すための取り組みからスタートしました。それが市民まちづくり会議の取り組みです。

市民まちづくり会議では、市民が自分たちの暮らし方や、将来希望する暮らし方などについて確認しながら、茨木市の将来像として「まちづくりビジョン（案）」を検討しました。

10回にわたる会議と自主的な会合を重ね、6つのグループ毎にまとめあげた「まちづくりビジョン（案）」は、茨木のまちに対する愛があふれる、様々な提案が盛り込まれています。特に、「人のつながり」や「思いやり」の大切さといった視点は、全てのグ

ループで盛り込まれていた視点であり、都市づくりにおいても大切にすべきテーマであることが共有されたのではないかと思います。

役者ぞろいの市民と市職員

市民が考えた「まちづくりビジョン（案）」の発表会では、演劇風、ペープサイト（紙人形劇）、絵地図など、各グループが趣向を凝らして発表しました。

検討した内容もさることながら、参加した市民、市職員が楽しみながら一丸となって発表したプロセスは、市民と行政の協働を広げることによるまちづくりの可能性や楽しさを表していたのではないかと思います。

市民の熱い思いを反映する都市MPの「かたち」

このように、「市民の暮らし」に着目し、広い分野にわたる課題や将来像についての議論がなされているわけですが、この市民の熱い思いを都市MPとして位置づける作業は今後の取り組みとなります。

茨木市では、市民の暮らしの視点からのアプローチがなければ、役に立つ都市MPにはならないという認識で、都市計画法に関わる部分だけではなく、暮らしを支える広い分野をビジョンとして位置づけるための議論を進めています。

また、市民主体のまちづくり、地域単位でのまちづくりを進めていくために、地域別のマスタープランを作ってしまうのではなく、地域ごとに市民がまちづくりを考えていくための仕組みづくりについても位置づけていく予定です。



「大阪湾まるごと水族園」

大阪事務所／原田 弘之

お魚参加型の会場で

去る2月26日、170人近くの大阪湾好きが集まり「第2回ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」が開催されました。会場は、神戸の須磨海浜水族園です。深海をイメージしたエントランスホールで、隣に目をやると、造波プールの水槽で、魚たちが泳いでいます。まるで「お魚参加型のフォーラム」です。

「大阪湾屋台村」も登場

午前中は、須磨海浜水族園ボランティアの案内により、水族園の舞台裏を探検するバックヤードツアーです。

午後は、まず「大阪湾屋台村」の時間です。3つの屋台村が登場しました。タコ釣り体験、貝殻で万華鏡づくり、貝殻でお雛様づくりが体験できる「大阪湾生き物遊び体験パーク」、昔の古き良き思い出写真などを題材に語り合う「大阪湾思い出カフェ」、大阪湾の貝のコレクションや、水槽で泳ぐウミガメの子ども、実物の漂着ごみなどを見ながら



魚が泳ぐ巨大水槽の横の会場

何でも話題に登場した「大阪湾生き物トーク」です。

大阪湾のお宝写真を紹介

そして後半は、「大阪湾わいわい座談会（パネルディスカッション）」ですが、「はなまるカフェ」よろしく、パネラーが大阪湾にまつわる、とっておきのお宝写真とお話を紹介しつつ、大阪湾談義に花を咲かせました。ちなみに登場した写真タイトルは、アメフラシの交尾、須磨海岸にクリオネがいた、海藻おしばと出前授業、アマモの種子シート、龍馬が見た日本の夜明け？など、個性豊かな楽しいものとなりました。

大阪湾見守りネット

このフォーラムは、昨年11月に設立された「大阪湾見守りネット」の初めての主催行事です。平成17年2月に開催した「第1回大阪湾フォーラム」をきっかけに集まった人々が中心となって、設立したゆるやかなプラットフォームで、大阪湾の再生をめざして、メンバー間の情報交流やフォーラムなどを開催しています。現在、市民やNPO、博物館、試験・研究機関、大学、民間企業、行政機関など約60の個人や



水族園ボランティアによるバックヤードツアー

団体が登録しています。アルパックがその事務局のお手伝いをしております。

「大阪湾まるごと水族園」へ向けて

今回のフォーラムのねらいは、会員の仲間づくりや対外的PRとともに、須磨海浜水族園に学んで、大阪湾再生に活かそうということです。大きなテーマですが、大阪湾全体が、水族園のように魚たちに囲まれ、豊かな海や魚について学び、遊べるようになればいいなあ、そのイメージのいいところ取りをフォーラムでやってみようということでした。結果、成功だったと思います。やはり、面白く豊かな大阪湾はユニークな人に宿っています。そのコラボレーションによって、さらに豊かな大阪湾のイメージが描けたような気がします。

第3回のフォーラムはどんなお祭りになるか楽しみにしてください。



貝殻で万華鏡づくり



「お宝写真」を見せながら大阪湾談義



◎大阪湾のお菓子いくつ知っていますか？

上記のフォーラムの中で「大阪湾思い出カフェ」という屋台村を設けましたが、企画する段階で、せっかく「カフェ」なんだから、何か大阪湾にちなんだお茶菓子を出すことになりました。大阪湾見守りネットのメーリングリストで、「大阪湾にちなんだお菓子募集！」と呼びかけると、普段はあまり情報が流れないメーリングリストにこの時とばかりは情報が飛び交い、結局、8社が計18種類のお茶菓子を出品していることがわかりました。少し考察すると、もなかやまんじゅうなどの甘党系とせんべいなどの乾き系があり、全体としては高級路線より、庶民派路線が多い。ネーミングのモチーフはたこや鯛、えびなど海の生き物系の他、歴史性のある燈台や大橋、さらには防潮堤などもあります。ちなみに素材として大阪湾産のものを使ったものは「えび」と「海藻」がありました。みなさんも一度、ご賞味あれ。



<明石・永楽堂>

- ・たこまんじゅう
- ・たこカステラ
- ・海藻せんべい
- ・たこクッキー
- ・明石たこせn
- ・はね鯛せんべい
- ・たこあめ

<西宮・高山堂>

- ・スイーツまーめいど

<西宮・オーゼキ・エフ・アンド・シー>

- ・今津灯台

<尼崎・松和堂>

- ・防潮堤せんべい

<大阪・平和堂>

- ・なみはや大橋まんじゅう

<堺・福栄堂>

- ・堺燈台もなか
- ・磯松風
- ・松露だんご

<泉南・西川>

- ・えびの華
- ・えびの極

<貝塚・林宝泉堂>

- ・たこ坊主もなか

ロボット博の紹介

大阪事務所／澤田 英郎

ホンダのヒューマノイドロボット“アシモ”が、子どもたちと追い駆けっこをする、そんなCMが話題を集めました。また、ロボットによるサッカーの世界大会「ロボカップ2005大阪」が昨年夏インテックス大阪にて開催され、ヒューマノイドリーグでTeam Osaka (ヴィストン(株)他)が2年連続総合優勝を成し遂げるなど、今、ロボットは様々な場面で注目を集めています。

そうした中、昨年11/30～12/3に東京ビックサイトにて開催された「国際ロボット展」に参加する機会がありました。会場は、ロボット開発を行っている研究者や企業関係者以外に、高齢者や学生、子どもたちなど、一般の参加者も多く、ロボットに対する世間の関心の高さが窺われました。



CHIRIS

ここでロボットといっても様々な種類があります。愛知万博で会場案内を行った接客ロボット「アクトロイド」などのヒューマノイド型ロボット以外に、身につけることで人の動きを支援する“着る”ロボット「HAL」、ハンディキャップを持つ人の操作を容易にした未来型の車椅子ロボット「CHIRIS」、監視カメラなどのアンコンシャス型ロボットなど、外見上はそれと分からないようなロボットも数多く開発されています。

そうした中、全国でも特に関西では、ロボットに関する研究開発が進められています。例えば、「都心に残された最後の一等地」として、その開発は大阪のみならず関西再生の鍵を握るといわれる、JR大阪駅北側の梅田貨物駅の再開発「北梅田プロジェクト」では、まちづくり基本計画において「ナレッジ・キャピタル（未来の知的創造拠点）」が



アクトロイド



学研都市における公道実証実験(11/24)の様子

位置づけられています。

その先端技術分野の1つとして「ロボットテクノロジー」の集積を目指すことが示されています。また、昨年、神戸三宮地下街や関西文化学術研究都市において、ロボットを用いた実証実験が実施され、多くの研究者や人々の注目を集めました。

ある研究者の方にヒアリングを行ったとき、「ロボットは、人と同じことが出来るようになることが究極なんです。」と教えて頂きました。もちろん、災害時に人を助けるロボットなど、人には出来ないことを目的に開発されているロボットもあります。しかし、そうしたロボットでも、時々の判断能力やコミュニケーション能力、動作の仕組みなど、多くの面で人に近づく努力がなされています。

「ドラえもん」とはいかなくとも、いつの日か我が家に「もう一人の家族」がやってくることを夢見つつ、今後のロボット開発の進展に注目していきたいと思えます。

“けいはんな発・まちブランド” ついに発車！

大阪事務所／山本 昌彰

けいはんな線が開業

ニュースレター (Vol. 134) で、けいはんな線を歩くイベントに参加させていただいたお話をしました。もちろん、けいはんな線の開業前のお話です。

今回お話するのは、もうご存じのこと、その3月27日に開業した「けいはんな線」の3つの新駅のお話です。

アットホームなけいはんな線の新駅

新しく開通した近鉄けいはんな線の新駅は、近鉄のホームページ等によれば、「人にやさしく便利な駅」（「わたしのまちのあっとホーム」）として、「地域のお客様の“ホーム（＝家）”をめざし、あたたかい心のこもった快適なサービス（アットホーム）と、“あっと”驚くような便利なサービスの提供に努めることをめざす」としています。どんなところがそうなのか、その新駅を順にみてみましょう。



けいはんな線開業日の一番電車に乗り込む乗客



きんきょう

白庭台駅

まず、大阪方面（新石切駅）から生駒駅を過ぎると、長い長いトンネルに入り、そのトンネルの先に「白庭台駅」があります。

ここの駅は、開放的な無柱空間と大きなガラスの窓などが特徴的で、外壁のガラススクリーンや膜素材の屋根から外部の光がやさしく入り込み、「雑踏の大阪から空気のおいしい奈良へ帰ってきた」というアットホームの雰囲気にさせてくれます。“トンネルを抜ければそこは白銀の世界…”ではないのですが、まるでディズニーランドなどのアトラクションに乗っているかのように、別空間へと私たちを誘います。（ちょっと大袈裟かな）

学研北生駒駅

白庭台駅を過ぎるとすぐに「学研北生駒駅」に着きます。ここでは、「奈良先端科学技術大学院大学」が開発した情報端末ロボット「キタちゃん」と案内ロボット「イコちゃん」が乗降客を迎えてくれます。このロボットに「どこどこに行きたい」などと話しかけると、すぐにパネルに案内情報を表示してくれたり、駅構内の希望する場所に案内してくれます。

また、「インタラクティブ・



開放的な雰囲気の白庭台駅

ウォール」といって、CGによるリアルとバーチャルが入り交じった不思議な体験のできるコーナーなどもあり、このような最先端技術には、まさに“あっと”驚かされます。これらは、3ヶ月くらいの期間限定の展示品らしいので、是非この機会に体験してみてください。

学研奈良登美ヶ丘駅

学研北生駒駅を過ぎ、しばらく走ると、けいはんな線のターミナル駅「学研奈良登美ヶ丘駅」（筆者の自宅の最寄り駅）に到着です。少し長い名前の駅ですが、学研都市らしく、実に「響きのいい」駅名だと思います。

学研奈良登美ヶ丘駅は、右下の写真のように、なんだか、いかにも「この先も延伸していきますよ」というような形の駅舎となっていますが、実際のところはどのようなのでしょうか…。

現在の駅前には、まだ開発途中でほとんど何もありません。しかし、この夏に開業予定のイオン・



ロボットが出迎えてくれる学研北生駒駅



学研北生駒駅の「インタラクティブ・ウォール」

ショッピングセンターをはじめ、続々便利な施設ができてくるということです。まさに突然の駅の出現によって、確実に“まち”が変化していくのです。「わたしのまちのあっとホーム」=本当に“あっと”驚くのは、まだまだこれからというところでしょうか。

「けいはんな発・まちブランド」発車

なにはともあれ、この駅と新線によって、学研都市と大阪都心部がつながりました。また、これまで奈良には無縁と思っていた「海」（大阪ベイエリア）にまでつながりました。こうして「けいはんな発・まちブランド」は、ついに発車されたのです。

しかし、この原稿を書き上げているのが、奇しくも、あの忌まわしい「JR 福知山線脱線事故」からちょうど1年の4月25日です。この事故による犠牲者の方々のことを思うと、正直、このように新線開業を喜んでばかりいられないのかも知れません。

「時間短縮」や「便利なサービス」といったものは、もちろん「安全」を前提にしたものであってほしいと願いつつ、このまちと新線の今後のますますの発展を期待します。



開発が進む学研奈良登美ヶ丘駅の周辺

ソーシャルアクションスクール (竹中塾) に参加して

大阪事務所 / 田口 智弘

平成 17 年 10 月から約半年間というロングランの講習会に参加しました。その名も第 2 期竹中塾 (ソーシャルアクションスクール)。会途中で改名する前は『スーパー公務員養成塾』でした。その内容は、『竹中平蔵経済財政政策担当大臣のイニシアティブのもと、中間法人「TRIGGER Lab.(トリガーラボ)」と、竹中大臣の呼びかけに呼応した現役若手国家公務員を中心に構成される「スーパー公務員養成塾実行委員会」の主催による「竹中塾 (スーパー公務員養成塾第 2 期) : 仮称」。当塾は公務員のみならず、民間企業の方、学生の方によって、「志」をもってこの国の将来を真剣に考え、「公(public)」の果たす役割は何か? ということを議論し、具体的な政策提言を行うものです。

なお、今回は東京、関西、松山、北海道の 4 地域同時開催となっています。』

関西地区の応募枠は 30 名ということでしたが、ふたを開けてみると実に 50 名 (オブザーバー参加含む) を超える大盛況となりました。また参加者の年齢層は現役学生から 50 歳代の超ベテランまで、また職業も国家公務員、地方公務員、学生、民間企業と多

彩で、それだけの人間がワイワイガヤガヤしゃべり合うだけでも、貴重な機会に恵まれたという感慨に浸ることができます。

塾は、10 月から翌 2 月までの 5 ヶ月間に月 2 回の割合で、計 10 回。土曜日もしくは日曜日の半日から 1 日を費やして行います。

会費 3 千円 / 回が必要ですが実費 (資料コピー代、講師交通費等) で、運営スタッフは 1 期生による無償ボランティア、会場は大学等の無償提供と開催趣旨からして商用講習会と比べるまでもありませんが非常に希有な存在ではないでしょうか。

各カリキュラムの前半は著名講師 (ボランティア) による主に政策検討に係る講義、後半はグループに分かれて政策提言に向けたワーク。全カリキュラムの間には全員参加のトレーディングゲームなど頭のリフレッシュと交流を兼ねたプログラムも生まれ、一時も気を抜けない濃密な時間を過ごします。

全 10 回のうち 1 回は全国塾生が一同に会する全体会となっています。早稲田大学のホールをお借りして各地区代表による政策提言の中間発表会とその講評、またその結果をもとにした全体交流会が行われます。その後は希望者による懇親会。北海道から松山まで、一気にネットワークが広がる貴重な時間でした。

この塾の最後を飾る政策の最

終発表と審査。秀作は現実の国の政策に反映されるとあって各グループの気合は十分。約半年間のグループワークの成果が試される場でもあり緊張の瞬間です。私が参加するグループは、地方公務員 1、学生 2、民間 1 (私) の 4 名からなり、『ドラえもんが日本を救う』と題して、人口減少、高齢社会により活力の低下が懸念される日本をロボットテクノロジー (RBT) を活用して元気にしようという内容です。結果は、関西全 10 チーム中 3 位、実行委員長 (経済産業省 : 鈴木英敬氏) 賞の名誉に預かりました。たかが 4 人なのですが、貴重な時間と自腹を割いた志高いメンバーゆえ合意形成から脱稿までは紆余曲折のプロセスをたどりました。

発表会の後は大宴会で幕を閉じましたが、その際に第 3 期開催の誓いが立てられましたので、18 年の秋には新たな案内が行われていることと思います。長丁場でかつ若干の費用負担 (会費) が求められますが、あまりあるおつり (効果) が期待されますので、一度ご参加されてはいかがでしょうか。

参考までに第 1 期趣旨など

<http://www.triggerlab.jp/news/report.html>

第 2 期ブログ

<http://spkoumukansai.dreamblog.jp/>



みんなの思いをつなぐ
～ JR 福知山線事故から
1年目の取り組み～

大阪事務所／坂井 信行

JR 福知山線事故から1年目の4月25日に、沿線の各地で市民レベルのボランティアによるさまざまな取り組みがありました。テレビや新聞でも大きく取り上げられましたが主な取り組みをご紹介します。

①空色のリボン

沿線の各駅（新三田～尼崎、同志社前）などで空色のリボンが配布されました。「あの日を忘れないで」という思いを込めてボランティアの手作りで約2万個のリボンが用意されました。この日1日、みんなが同じリボンをつけることであの事故のことに思いを寄せるという趣旨です。1年前のあの日、空は澄み渡った青でした。

②メッセージボード

沿線の主要駅（三田、西宮名塩、宝塚、川西池田、伊丹、尼崎、同志社前）で自由にメッセージを書き込むことができるボードが設置されました。7つの駅に設置するボードを合わせると、青空に白い鳥が羽ばたく絵になります。

③思いをつなぐコンサート

脱線した電車の始発駅である宝塚で、沿線地域にゆかりのある人たちが出演する手作りのコンサートが開催されました。事故被害者の気持ちを癒すため



駅に設置されたメッセージボード

に自作の音楽 CD を配布されている今井裕さん（元サディスティックミカバンド）がプロデュースされました。ステージのバックには各駅から集められたメッセージボードが設置されました。

④追悼と安全の夕べ

事故現場に近い尼崎のアルカイックホールで追悼と安全願う集いが開催されました。内容は音楽、救助にあたられた方々へのお礼、遺族、負傷者、知人たちによる語りなどです。

⑤その他

事故で亡くなった学生の友人らによる追悼ライブや、事故が発生した時刻に沿線の寺院等で一斉に鐘を鳴らすといったことも行われました。ちなみに、JR 西日本は追悼慰霊式を開催し、沿線各駅には記帳所が設けられました。

①から④の取り組みは「思いをつなぐ連絡会－4月25日から1年」というボランティアのグループによって主催されたものです。思いをつなぐ連絡会は、遺族らの支援を行っている弁護士のグループや、被害者支援の取り組みを続けている NPO などのメンバーを中心に構成されました。直



思いをつなぐコンサート

接的な被害者のみならず、多様な立場の人がさまざまな形で関わることになった今回の事故では、1年目の4月25日に寄せる思いもそれぞれに異なります。そのため、沿線の各地でいろいろな取り組みを展開し、それぞれの思いをつないでいこうということになりました。

このような取り組みは今後も何らかの形で続いていくことになるのでしょうか、社会的な関心が年々薄れていくことは避けられないでしょう。亡くなった方への「追悼」だけにとどまらず、より広い視点からこの事故をとらえ、その教訓が沿線地域の文化として根付いていくことこそが事故を風化させないということではないでしょうか。



空色のリボンとコンサートのプログラム

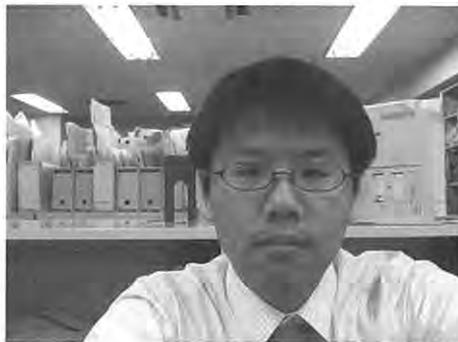
新・人 紹・介



京都事務所／山崎 裕行

4月1日より京都事務所に入社しました山崎裕行です。ある出来事から、「人間それ自体」と「人間と人間が生み出したものとの関係性」について関心を持ち、あれこれと考える中で、ある時、「都市・まちの姿は、その時々々の社会思想や個々の人間、あるいは一定の集団（コミュニティ）の価値観を反映しているに違いない」との意識が芽生え、大学院から本格的に「まちづくり」について研究するようになりました。

まちづくりには、3つの大きな柱があると思います。それは①住民主体、②持続性、③地域性、という柱です。実際の現場においては、その時々々の状況に応じて、合意形成プロセスや事業手法・内容などを変化させていくことが必要です。大きな柱とそれぞれの地域の特徴にあわせて、人々と共に都市・まちをよりよい姿へと変えていくための力。どうすればその力を生み出すことが出来るのか、またその力を持続・発展させていくにはどうしたらよいのか、実際の現場での経験と日々、問い・悩み続けることで、見出していきたいと思っています。まだ「何が分からないのか、分かっていない」状況ですが、どうぞよろしくお願い致します。



山崎 裕行

大阪事務所／西村 創

今年4月1日付けで大阪事務所に入社しました西村創です。

大学時代は建築史の保存の勉強をはじめ様々な活動をしてきました。その中で私が、まちづくりに携わっている方から聞いたとても素敵な言葉があります。

『気持ちが変われば行動が変わる。

行動が変われば環境が変わる。

環境が変われば自分が変わる。

自分が変われば他人も変わる。』

私自身今はまだ、未熟な人間ですので気持ちを变えて行動を変えて、自分を変えることしかできませんが、いずれは自分のやりたいこと、やれることは何なのかということ発信し、人を変える環境をつくれる人間になればと思っています。至らない点多々あると思いますが、宜しくお願い致します。



西村 創

編集局からお願い

新年度を迎え、皆様の住所、所属部署等の変更がございましたら、同封の宛先確認ハガキかFAXなどでお知らせください。また、あわせて皆様のご意見もお寄せください。

うまいもの通信



素朴な素材に技あり
卵かけごはん&どぶろく
大阪事務所／鮎子田 稔理

ここ数年卵かけごはんブームがじわじわと続いている。サミットが開かれたり専用醤油が売り切れ御免になったりしているらしい。単にご飯に生卵をかけるだけのシンプル料理なのに、醤油やトッピングなど人のこだわりは千差万別。しかし卵かけごはんファン共通のこだわりは新鮮卵とつやつやご飯に違いない。豊岡市（旧但東町）栗尾で養鶏場と農業を営む西垣源正さんが自ら育てた自慢の新鮮卵とお米を使って卵かけごはんの専門店「但熊」を3月にオープンさせた。

卵かけごはん定食 350 円、オムレツ定食 500 円。卵はテーブルの上に置いてあるので、いくつでも自分で好みの大きさの卵を割る。3種類置いてある醤油を選んで後は好みでねぎと海苔をかけてわしわしと掻き込むのみ。

調理に立つのは阪神大震災を機に但東に移り住んだ小林利洋さん。但熊にほど近い薬王寺で蔵人庵と名付けた自宅兼ギャラリーで書や彫り物や手作り柚胡椒の展示・販売なども行っている。

但熊の味噌汁は同じく但東の農家民宿「八平」で作られた青大豆味噌を使用。独特の風味が郷愁をそそる。この味噌は但熊に隣接する直売所「百笑館」でも購入できる。



どぶろく「八平達磨」

旧但東町赤花にある農家民宿八平では2004年に関西発のどぶろく製造免許を取得し目下製造販売中。蓋には穴があけてあり、常にぼこぼこと発酵し続ける。すぐに冷やせば1ヶ月程もつかもしいないが、時間が経つと酸っぱ味が出てしまうのでお早目に。

ちなみに私の買ったどぶろくは会社の花見の宴であつという間に sold out となった。

2005年の台風で多くの被害もたらされた豊岡市だが、地元の人々のやる気とパワーで元気を盛り返し益々目の離せない地域となっている。今後の新たな展開にも乞うご期待。

蔵人庵 HP 但熊の情報もこちらで

<http://www5.nkansai.ne.jp/shop/kura/>

八平 HP

<http://homepage1.nifty.com/HATIBEI/>



卵かけごはん定食



卵かけごはん専門店「但熊」



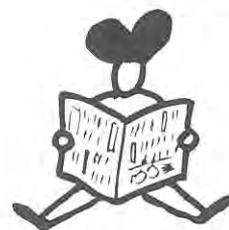
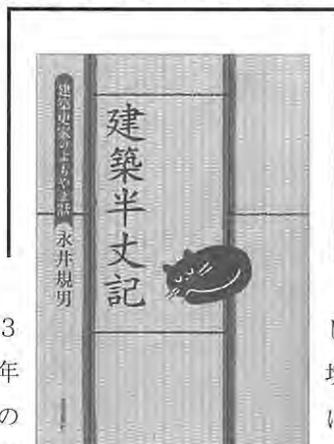
右から西垣さん、小林さん夫妻

MEDIA WATCH

「建築半丈記」

～建築史家のよもやま話～

著者／永井規男
出版／学芸出版社



紹介者／大阪事務所 馬場正哲

建築史家の永井規男先生がこの3月で関西大学工学部建築学科を定年退職された。これを記念に研究室の卒業生で、恩師の学内誌のエッセイを集めて出版しようと持ちかけた。先生は即座に断られたが、記念事業の世話人会を立ち上げ、むりむりに了解をいただき「建築半丈記」として出版にこぎ着けた。

先生は、建築工匠史、寺院建築、民家建築について研究されてこられ、寺院建築や古い民家の修理移築なども数多く手がけてこられた。調査研究の成果に基づいて、重要文化財に指定された建築も数多い。また、特定非営利活動法人古材文化の会（旧古材バンクの会）では、創設当時より代表を務めておられる。アルパックの関わった、旧大江町平野家住宅の大江町交流促進センターの誕生（本誌第83号）も、先生の「残した方がいいですね」の一言で保存活用が決まった。

本書は、寺院・古民家の調査、修理、移築を多数手がけられた老練な研究者ならではの洒脱な建築エッセイとなっている。ご専門の古建築のことから、人からまちへ、民俗へと広がり、時には真摯に世相を切り、建築史家ならではの発想や論理に感嘆させられる現代版「方丈記」である。

☆

この1月、満91歳で他界した父を介護した母が、この本の『トイレジェンダー論』を読んで、述懐したことがある。被災前の我が家は、大正時代の建築であったが、「朝顔」型ではないものの男用の小便器が小なりといえども堂々と存在

し、大小を区別した生活であった。老境の父に、急に座式トイレ一つの生活に変わってもらったが、『しかし…である。そもそもこの坐式なるもの、男にはけっこう不便なところが多いのだ。』

その後、足腰も弱り、高いところから目掛けて的をはずし迷惑を掛けることもあり、座式トイレに座して小用もするようになった。男は『座ってしまうと、つつい力んでしまって、小だけでおわらなくなりかねないのだ。』果たして大か小かの分別がつかず、排便のリズムを狂わせたのではないかと母はいう。

結局、父はその座式トイレで、脳内出血で倒れ、壁に寄り添うように穏やかな最期ではあった。戦前・戦後の激動の時代を生き抜いた父を、下の話でおくるのは不孝の極みとなったが、建築の専門におりながら、男のトイレ事情の一つも理解しなかった後進の私への、恩師と父母からの厳しい教えと受け止め、許しを請いたい。

☆

古建築に込められた、昔の住まいと住み方から、深い人間の知恵と営みの重みを、軽快な語りで伝えられる本書は、経済至上に染まってしまいかつ電脳化してきている後進の私たちへ、本当のこととは何か、優しい論しの、変わりゆく時代の最後のささやきかも知れない気がする。

住まいと人の生活、建築と人の営み、まちと人のコミュニティなどの現場での体感をとおり、多面で多様な立場と価値感から、住まいとまちのあり方の再構築に取り組みねばならない思いを、本書から新たにさせられた。



まちの姿が見えてきた二条駅周辺地区

京都事務所／松尾 高志

JR 山陰本線の連続立体交差や地下鉄東西線建設を契機に、平成2年度から土地区画整理事業が行われているJR二条駅周辺地区ですが、基盤整備は進捗しているものの、施設立地の具体的な動きが見られませんでした。しかし、ここに来て、西口交通広場が供用開始し、周辺での施設建設も活発になってきました。

大型複合アミューズメント施設「BiVi 二条」

西口交通広場に面する市有地では、整備当初から第三セクターによる映画を核とした文化施設整備事業が計画されていましたが、民間事業者の撤退等が続き、実現が危惧されてきました。しかし、昨年6月、シネマコンプレックを核とした複合アミューズメント施設「BiVi 二条」がオープンしました。事業方式は、定期借地型建物リース方式で、公募により選定された民間事業者が、20年の事業用定期借地を行い、建物の建設・施設管理を行っています。施設構成は、1階が飲食店中心の飲食・物販ゾーン、2階がゲーム・アミューズメント、3階が駐車場、4階がシネマコンプレックという構成になっています。シネマコンプレックは11スクリーンがあり、全席、完全予約制となっています。

立命館大学朱雀キャンパス

現在、二条駅舎の南東側に建設中なのは立命館大学の朱雀キャンパスです。ご存じの通り、立命館大学には、京都市、草津市、大分県別府市等に複数のキャンパス等を置き、幅広い展開を行っています。今回、二条駅前には学園本部機能、法務研究科（法科大学院）、経営管理研究科（ビジネススクール、アカウンティングスクール）等で移転・設置され、専門職大学院等の拠点となることが期待されています。平成18年9月竣工予定です。

他にも様々な施設が立地予定

今年3月には東口交通広場に面してJR二条駅NKビル（店舗、オフィス、クリニック、ワンルームマンション等）がオープンし、御池通り北側では今年6月オープンに向けてフィットネスクラブが建設中です。また、今後はホテル建設も予定されているようです。

これらの二条駅周辺整備事業は、「交流と創造のまち」を基本テーマとした京都西部の新たな都市拠点の形成を目指して取り組まれてきました。今後、このまちの姿がどのように変わっていくのか、そして、新しい時代の京都文化をどのように創造・発信していくのか、興味は尽きず、これからも注目していきたいと思えます。



BiVi 二条：西口駅前広場から



立命館大学朱雀キャンパス

アルパック(株)地域計画建築研究所

<http://www.arpak.co.jp> E-mail info@arpak.co.jp

本 社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入立売西町 82
大阪事務所 〒540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F
名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 8F
東京事務所 〒186-0001 東京都国立市北 1-1-17 田畑ビル 3F
九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478
TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760
TEL(042)501-2531 FAX(042)501-3024 分室 TEL(03)3226-9130
TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128